

黄綬褒章

いい仕事を残す

毎日の朝礼で、社員に必ず声を掛ける言葉がある。「いい仕事を残すことに全力を」。会社として、県防水工事業協同組合の長年の運営に対し評価を受けた。「2代目だから、先代から受け継いだものを大切に。お得意さま、社員、家族には感謝している」。

父・一氏から引き継いだのが1994年2月。それから代表取締役として、社員を引っ張ってきた。「経営は先を見がちだが、過去を知らないとは見えな



山崎 洋氏(山崎商會代表取締役)

2007年には県防水工事業協同組合の理事長に就任。業界を代表して内外に向け技能士の重要性和地位向上を呼び掛ける。会社としては創業から50年経ち、組合は来年40周年を迎え次世代へバトンを渡す時期に「技を証明する技能検定の取り組みを進め、評価を高めていきたい。また、発注者や施主の期待に沿えるように技能士の育成を行ってほしい」。

春の褒章

受章の喜びを語る

黄綬褒章



篠原 誠氏(鹿兒島土木設計代表取締役)

「多くの人に支えられてきた。今後も業界全体の技術力向上に尽力したい」。22歳で父・正治氏が創業した鹿兒島土木設計に入社し、現場や営業で技術・知識を培い、

後継者不足が懸念される中、事業承継者の組織化を図ろうと2014年に県測協で経営者協議会を発足。初代議長として熟練経営者とのパイプ役を担うなど、人材育成や業界発展に力を注いだ。「効率向上は一長一短にはいかない」。ICT活用が主流化し、UAVでの測量や3次元データ作成など「時代に合った技術の習得が不可欠」と語る。そのためには継続した開発が必要であり、適正な利潤の確保に向け、労務単価や最低制限価格の引き上げを要望し続けている。

成果品向上を追求



若年層の建設業界への入職促進を。第一建設(木山裕継社長、始良市)は、これまでの土木のイメージを変えて、若者や女性にもアピールしよう

と、作業服を一新した。写真。長年着用していた上下・グレーから、上着は赤色、ズボンに黒色に。斬新なデザインで業界のイメージアップに取り組んでいる。同社は創業63年を迎える。令和の新しい時代に心機一転、さらなる成長を目指す。深刻な人材不足が叫ばれる

かごしま国体ランナー募集 いちき串木野市 いちき串木野市はかごしま国体の炬火リレー走者52人を募集している。期間は5月11日まで。募集は、郵送やアクセス、メールなどで受け付ける。結果は、5月下旬に予定。リレーは8月19日に実施。コースは、市来弓道

元衆議の山本實彦氏

功績称え銅像建立

川内川河川改修の礎築く



薩摩川内市出身(東大小路町)で川内川河川改修の礎を築いた山本實彦氏は、市内外の建設業中、若年層の建設業離れを何とかしたいという思いから作業服を新調。女性社員を中心に、素材や機能性を追求。また、これまで地味な色の作業服が多かったことから、あえて派手目の赤色を選択し、着心地や動きやすさにこだわった。向江副社長は「建設業は地味で、いまだ3K(きつい、汚い、危険)のイメージが根深い。見た目の印象も大事で、明るいイメージで若者があることが業界にしたい」とし、「通気性や作業性が良く社員にも好評。作業服をそろえることで会社の一体感にもつながる」と話した。

値で「現代日本文学全集」を発行するなど、斬新かつ大胆なアイデアで「出版界の革命児」と呼ばれた。昭和5年の衆議院議員選挙でトップ当選し、与党・民正党の議員として、「暴れ川」の異名を持つ川内川の治水のために当時420万円(現在の時価で132億円)も国家予算を導いた。事務局に携わった、建設資材を扱うナカノの野義彦相談役は「未来を担う若者に郷土の偉人を知ってほしい。リーダーの役割の大切さや生きる様を元氣な子供たちに伝えていきたい」と話した。